

大会名称: 第3回FIBA U-17男子バスケットボール世界選手権大会

開催場所: Al Shabab Arena(アラブ首長国連邦・ドバイ)

試合区分: No. 101 男子 予選ラウンド・グループB コミッショナー: Zulfikar Hussein KARIM(TAN)

期 日: 2014(H26)年8月8日(金)

主審: Aare HALLIKO(ESP)

開始時間: 13:30

副審: Mohamed Said ELMENSHAWY SELIM(EGY), Julio Cesar ANAYA FREILE(PAN)

終了時間: 15:30

日本

(通算0勝1敗)

●
84

14 -1st- 27
17 -2nd- 14
25 -3rd- 19
21 -4th- 17
7 -OT1- 20
-OT2-
-OT3-

○
97

オーストラリア

(通算1勝0敗)

第3回FIBA U-17男子バスケットボール世界選手権大会が開幕。

第1ピリオド 日本は、#5林、#7武藤、#10牧、#14八村、#15平岩によるハーフコートマンツーマンでスタート。高さのあるオーストラリアに対して、ペイント内で思うように攻めることができず、オーストラリアに対して1ピリオド14-27とリードを許す。

第2ピリオド 日本は、高さのあるセンターに対して激しいディフェンスや、#9軍司の積極的なリバウンドで相手の攻撃のリズムを狂わせ、#4前田、#9武藤の連続3Pにより、いっきに点差を縮め、5点差まで詰め寄り。しかし、その後、インサイドで得点を奪われ、前半31-41の10点差で折り返す。

第3ピリオド、日本はオールコートのマンツーマンを仕掛け、#14八村が4連続得点するも、オーストラリアにも得点を重ねられ、一進一退の攻防。しかし、#7武藤の3Pとファーストブレイクの連続得点で2点差まで詰め寄り、#10牧の3Pで逆転する。その後、オーストラリアも3Pやバスケットカウントを決めるなど、再逆転され56-60と4点ビハインドで3ピリオドを終了。

第4ピリオド、#9能見、#4前田が外から得点するも、オーストラリアも得点を重ね、ゲームはシーソーゲームとなる。日本は、高さのあるオーストラリアのインサイドに対して激しくディフェンスを行い、#9軍司、#14八村のリバウンドで必死に食らいつく。残り1分20秒で5点差で日本タイムアウトを取り、タイムアウト開けからオールコートプレスを仕掛ける。功を奏しボールを奪った日本は、#9能見の3Pで2点差とする。その後オーストラリアにフリースロー1本を決められ3点差とされるも、残り4秒、#14八村の3Pで土壇場で同点に追いつき、延長にもつれこむ。

延長戦 そのままの勢いでゲームに入るが、日本のインサイドでのファウルにより相手にフリースローを与えてしまい、ジワジワと離される。その後、8点差となったところで、ファールゲームを仕掛けるも日本はオフェンスの決め手に欠け加点できず、最終スコア84-95と接戦をものにする事ができなかった。

次戦、8月9日(土) 14:15(現地時間)より、予選ラウンド(グループB)第2戦をカナダと対戦する。